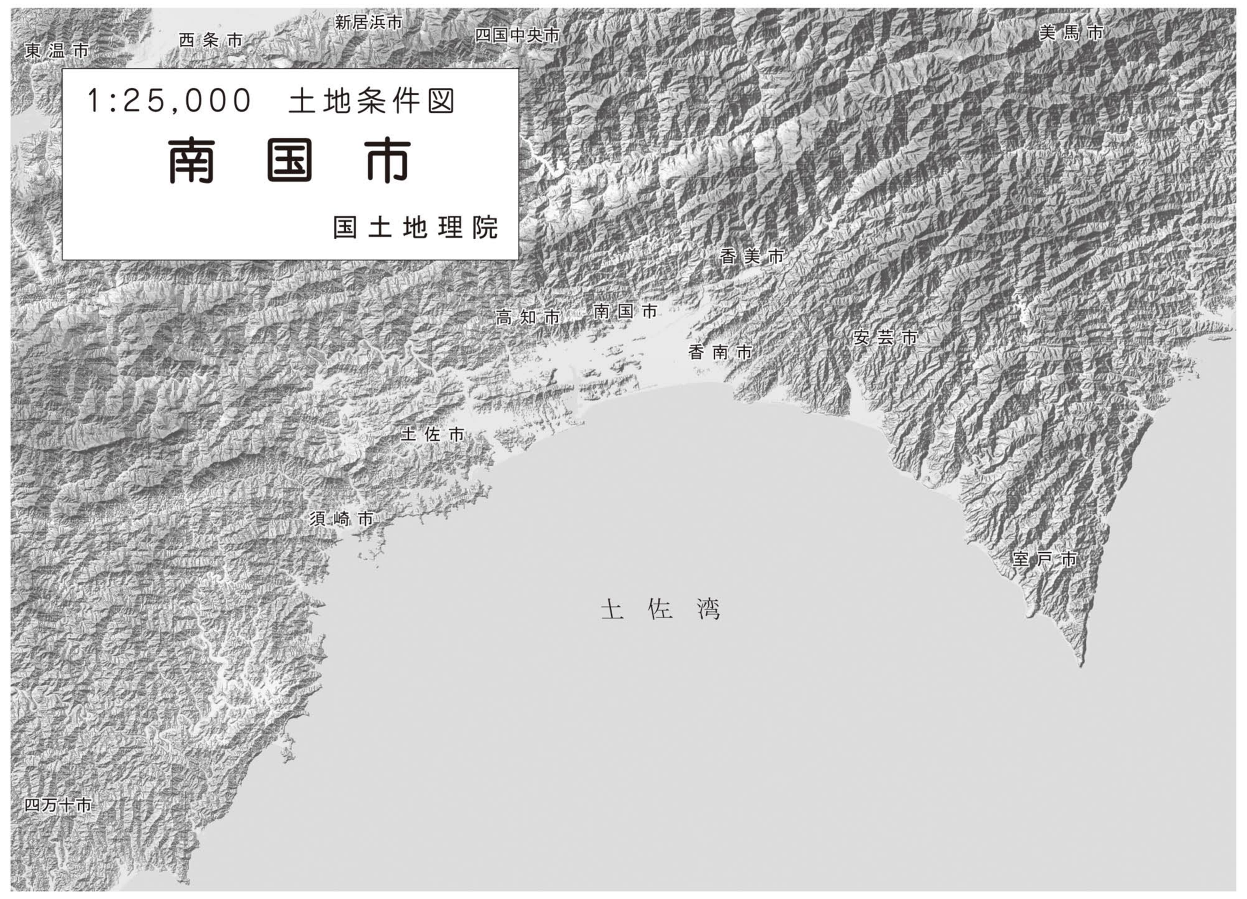


1：25，000土地条件図について

1．土地条件図の構成

1:25,000土地条件図は、自然体等が作成するハザードマップをはじめ地域の適正な開発、保全、防災対策などの検討に必要な土地の性状に関する基礎資料を提供するもので、その表示内容は地形分類、地盤高および防災機関・施設の3つに大別できる。

地形分類

土地の性状は場所によってさまざまに異なっている。そのうち、地質、土壌、水文特性、気候、植生などの自然条件や土地利用特性などは、地表の形態（地形）を強く反映している。したがって、土地を地形の種別に区分することは、土地の性状を知る有効な方法の1つである。ある地域の地形を分類し、それぞれの地形の分布を明らかにすることが地形分類である。この土地条件図に表示した地形分類がどのようなものであるかについては、2．で述べる。

地盤高

平野部などの平坦な土地にもわずかな起伏があり、これによって土地の排水の良し悪しなどが左右される。土地条件図では、主に低地部について標高1m毎の詳細な地盤高線（等高線）を表示しており、この地盤高線から、相対的に低い土地、例えば、海抜0メートル地帯のひろがりなどを読みとることができる。

防災機関および施設

土地の開発、保全、防災に関係している公共機関と河川・海岸工作物などの位置を表示している。これによって、地域の施設整備の状況がわかるほか、防災上の重要な施設、注意を要する施設などの配置と土地の性状との関係を知ることができる。

2．地形分類

土地条件図の地形分類では、地表を構成する各種の地形の形態的な特徴に着目し、土地の成因、形成時期、表層地質などの同質性を考慮して、以下のように分類している。

主要分水界

山地・丘陵における主要な稜線で河川の流域界をなすものである。

山地斜面等

山地・丘陵または台地の縁などの傾斜地をいう。

変形地

変形地には、次のようなものがある。

崖：自然、人工を問わず、幅の狭い急斜面。

地すべり地形：地すべり現象で生じた地形。地すべりによって生じた崖（滑落崖）とすべった土塊の到達範囲（押出しの範囲）を表示している。

台地・段丘

台状または階段状の地形であるが、土地条件図ではその平面の範囲を表示している。台地・段丘の形成時期は比高のほか、土地の性状が異なる。

山麓堆積地形

斜面の下方、山間の谷底または谷の出口等に堆積した、岩屑または風化土等の堆積地形面をいう。

低地の微高地

低地は、台地に比べれば浸水しやすく、排水が悪い。また、地震も軟弱な土地である。

扇状地：河川が山地から出た地点に河川が運び出す土砂が堆積して形成された扇形の地形。

自然堤防：洪水時に運ばれた砂やシルトが、流路沿いにまたはその周辺に堆積してできた高まり。

砂（礫）州・砂（礫）堆：現在および過去の海岸、湖岸付近にあって、沿岸流や波浪により運ばれた砂礫質の高まり。

砂丘：海岸や大河川沿いの土地に、風で運ばれた砂が堆積して形成された小高い丘。

天井川・天井川沿いの微高地：人工的に流路が固定された河川では、その後も旺盛な堆積作用の結果、河床が周囲の低地よりも高くなることがある。

凹地・浅い谷

台地・段丘や扇状地などの表面に形成された浅い流路跡や侵食谷。

低地の一般面

海面や河川との比高が小さい土地である。

氾濫平野・谷底平野：河川の堆積作用により形成された低平な土地。

海岸（湖岸）平野・三角州：海（湖）水面の低下によって陸地となった平坦地。

後背低地：自然堤防や砂（礫）堆などの背後に位置する低地。

旧河道：低地の一般面の中で周囲より低い帯状の凹地で過去の河川流路の跡。

頻水地形

高水敷・低水敷・浜：高水敷は、河川堤防の河川側（堤外地という）で洪水時のみ冠水する土地。

湿地：地下水位が高く、常に湿っていて排水が悪い土地。

潮汐平地：干潮時に水面上に現われる平坦な土地。

水部

河川・水涯線および水面

旧水部：過去に海や湖沼、池だったところが埋めたてや自然に陸化した部分。

人工地形

人為的に自然地形を改変したもので、国土では自然地形分類の上に付加記号として表示されている。

切土地：山地・丘陵、台地縁などの斜面を、主として切取りにより造成した平坦地または緩傾斜地。

切土斜面：切取りでつくられた人工の斜面。

盛土地：主として低地に土を盛って造成した土地。

盛土斜面：盛土でつくられた人工の斜面。

埋立地：水部を埋め立てた土地。

干拓地：湖沼や海の内陸水面を排水して造成した土地。

改変工事中の区域：本図作成時において人工的に地形改変が進行中の区域。

3．この図の利用法について

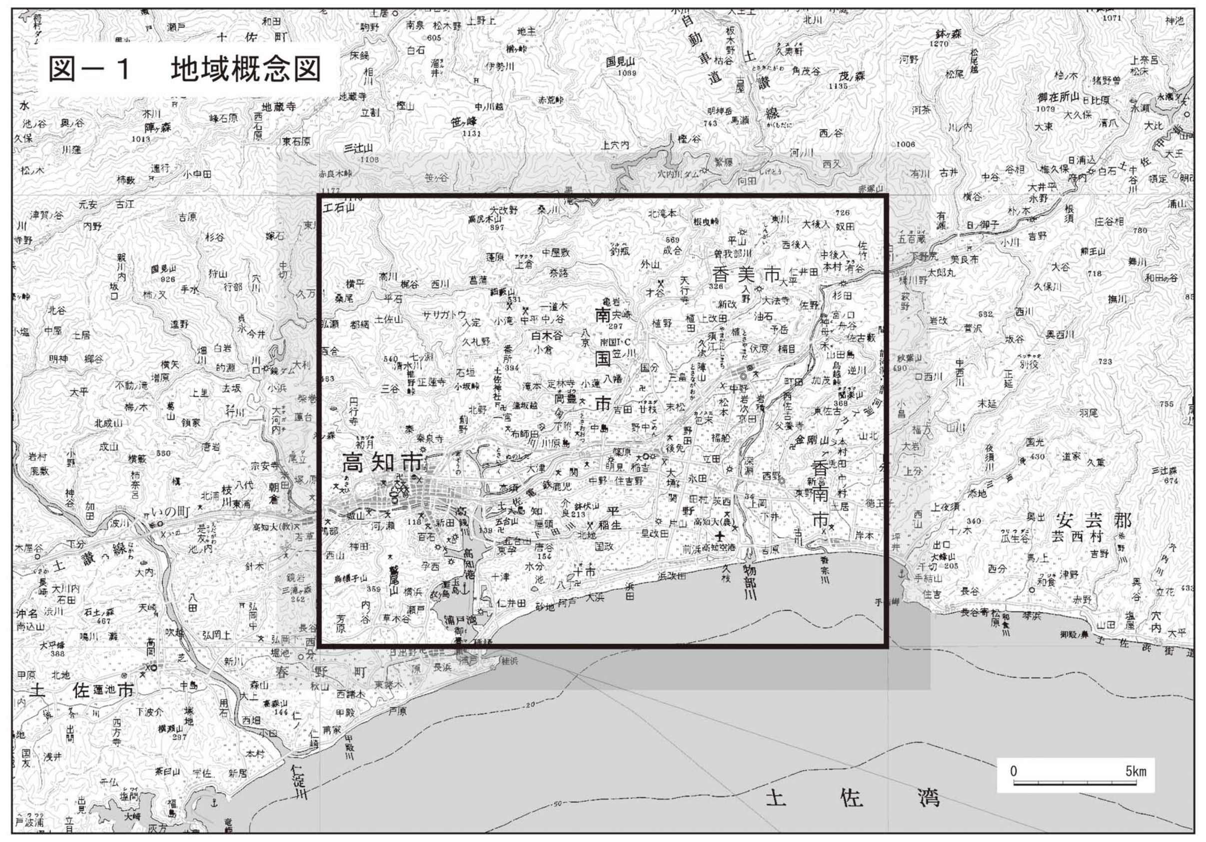
以上のように、土地条件図からは地形分類や地盤高線によって土地の性状、微起伏が把握でき、また各種防災関連機関・施設の配置などを読みとることができる。

また、土地条件図は地域の自然環境の調査に必要な基礎情報としても利用できる。

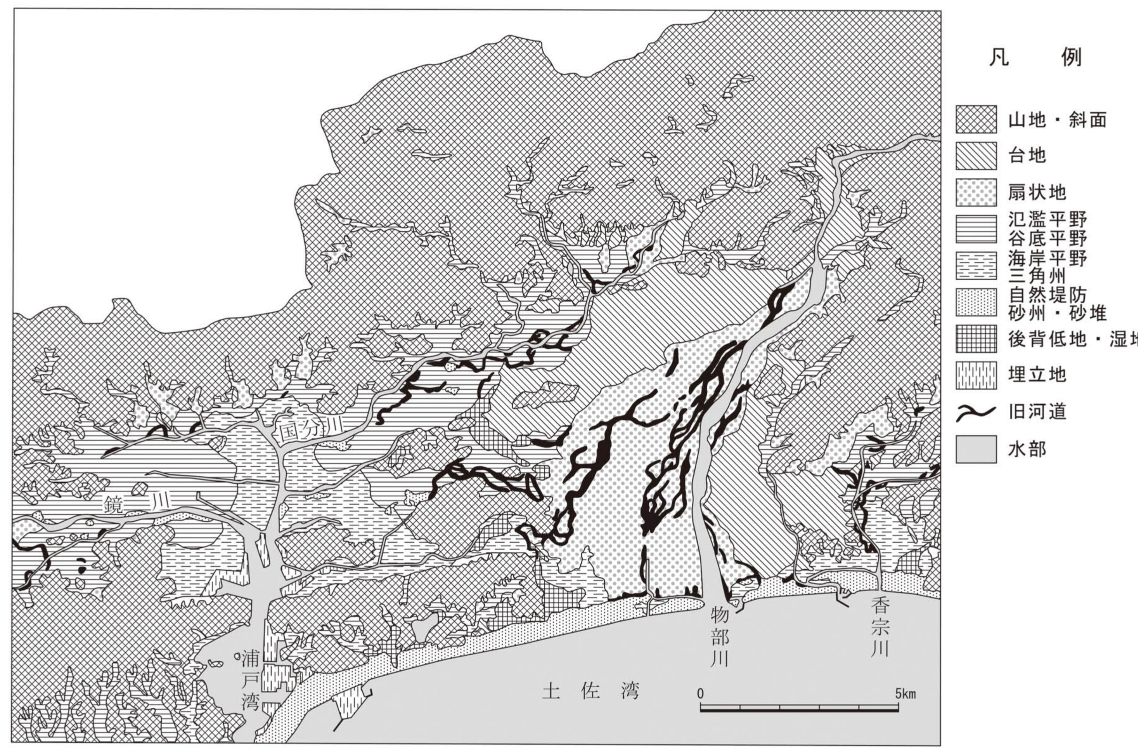
※表紙の図は、数値地図50mメッシュ（標高）から作成した陰影図である。

土地条件図に関しては、下記にお問い合わせ下さい。
問合せ先 国土地理院地理調査部防災地理課
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
電話 029-864-1111（代表）

図－1 地域概念図



図－2 地形概念図



図－3 地形地域区分図

地形の概要

本調査地域は、脊梁山脈である四国山地の南麓に位置し、高知平野の東部に位置する。

山地・丘陵

本調査地域の山地は、高知平野を取り囲むように分布し、おおむね四国山地南部から続く一連の山地で構成されている。

長浜丘陵ほか

山地・丘陵の地質

台地・段丘

台地・段丘は、その大半が物部川沿いに分布しており、そのほかには小規模なものが散見されるに過ぎない。

土佐山田台地、野市台地

その他の台地

低地

物部川扇状地

砂（礫）州・砂（礫）堆

高知平野（狭義）

氾濫平野・谷底平野

海岸平野・三角州

災害履歴

地震災害

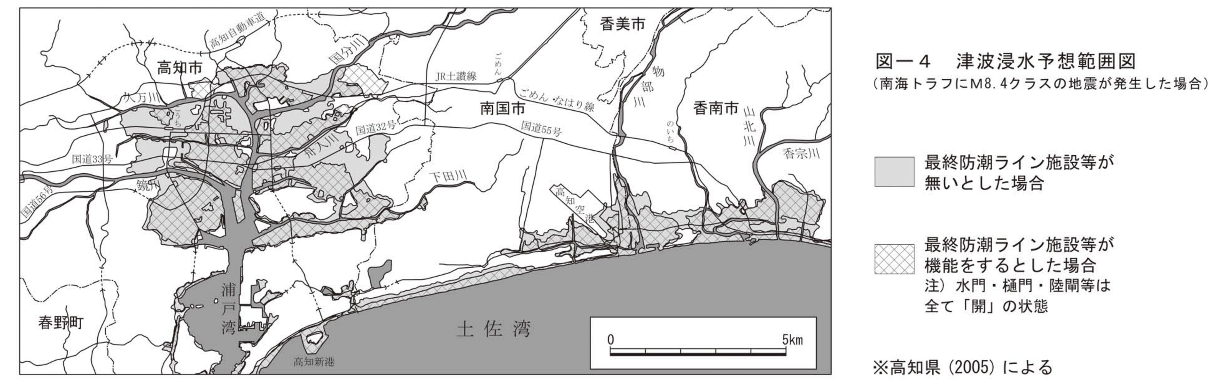
表－1は高知県に被害を及ぼした主な地震をまとめたものである。

風水害

四国は地理的にみて南九州と並んで台風が接近・通過しやすい位置にある。

開発計画と防災計画

表－3 地形分類と災害等との関係

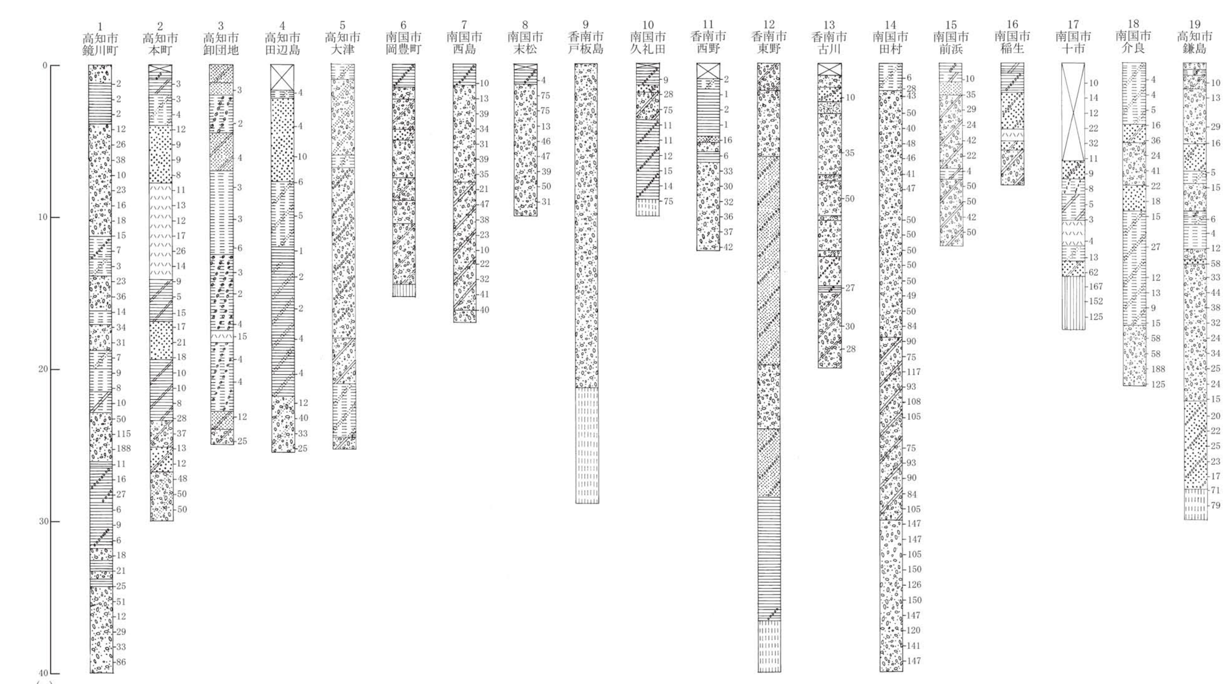


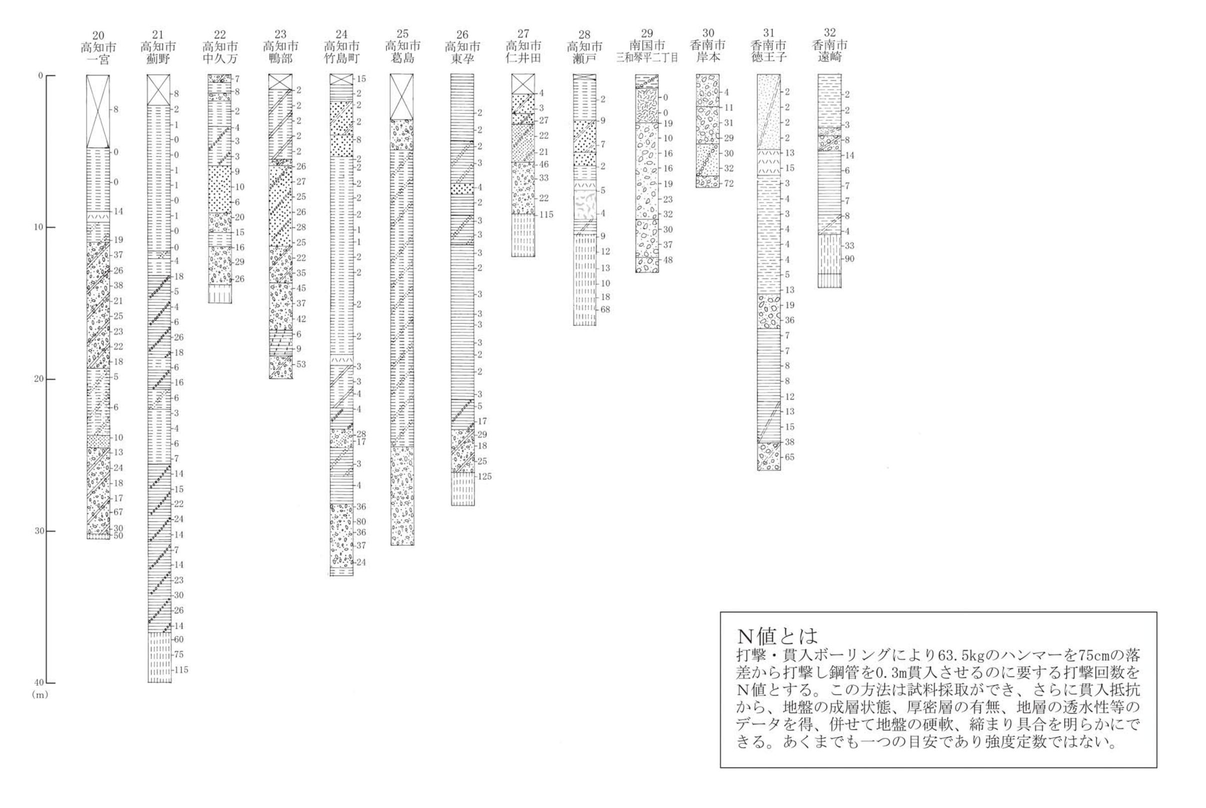
参考文献

謝辞

柱状図

柱状図は、下記の凡例により記載した。
柱状図の位置は、土地条件図上に赤い対番号を付して表示した。





表－1 南海トラフにおける著名大地震

表－2 高知県に風水害を与えた台風等の被害状況

N値とは
打撃・貫入ボーリングにより63.5kgのハンマーを75cmの高さから打撃し鋼管を0.3m貫入させるのに要する打撃回数をN値とする。